

保険や不動産等  
大手企業大躍進

深刻な高齢社会を迎える

中国。2014年に入って

から、国内において介護ビ  
ジネスの勢いは衰えること  
なく、ますます「大躍進」  
しています。特に、エネル

ギー産業を握る国有企業  
や、金融投資、保険会社、  
不動産開発などといった大  
手企業がこぞって福祉産業

## 日中福祉交流コーディネーターが見る 上海福祉の今

日中福祉プランニング代表 王青



プロフィール  
中国上海市出身。1989年留学のため来日。語学学習を経て大阪市立大学経済学部卒業。95年より日本企業介護福祉関係部署に勤務。上海市民政局や、上海市障害者連合会などの長年の親交があり、上海市と日本の介護福祉分野の交流・ビジネスを支援してきた。2002年7月フリーに。福祉分野を中心に日中のコーディネーターとして活動中。市場調査、マスコミ取材、ビジネス支援、視察企画など多くの案件を実現してきており、上海福祉分野に関しては第一人者である。

ビジネスに参入しようとしており、バスに乗り遅れるな、という雰囲気になってきている今日この頃です。

このような背景には、①

急速に進む深刻な高齢化社会（昨年末60歳以上の高齢者人口は2億人以上の高齢者人口は800万人の勢いで増加していくと予測されています）、②政府は介護サービスを民間企業に委託していくために、介護サー

ビスに参入する企業を奨励する政策を打ち出している、③経済の発展に伴い、高齢者が求める生活水準が高くなっており、多様なサービスが求められていることがあげられます。



しかし、介護ビジネスのフィーバー現象とは対照的に、介護ビジネスとはいいたい何なのか、本当に成功できるのかなど、不透明な部分もあり、戸惑っている関係者が多いのも現状です。最近では、関係者が集まり、これらの疑問点について話し合う勉強会や意見交換会が定期的に開催されています。

この勉強会には、長年介護ビジネスを行ってきた程度知識を持っている人からこれから介護に参入しようとしている人、もしくはしたばかりの人が参加しています。話し合いを重ねていく中で、これまでの介護ビジネススタイルとしてきた次のようなビジネスモデルには落とし穴があるの

## 介護フィーバー現象でビジネス不透明

ではないかと問題提起した人がいました。



介護事業考える  
勉強会を開催

○介護リスクを避けたり、投資回収が早いという側面から、自力で生活できる富裕層をターゲットにする  
○家具や、福祉用具、リハビリ機器など、とにかく高価な設備をそろえ、見栄えをよくするなど、ハード面を重視

○立地状況は後回しにし、300〜400床ほどの施設をたくさん運営。規模を重視  
○医療を重視するあまり日常生活のケアを粗末にしてしまう（医者や看護師を常駐させることは、介護施設の必須条件）

○中国にとって介護ビジネスはまだ新しい産業であるため、とにかく高学歴や、不動産・金融・保険機関で勤務経験のある人たちを介護ビジネスに引っ張る  
○社会保障制度や、国の実

情の違いを無視し、海外の介護理念と運営形式をそのまま持ち込み、真似る

このようなビジネスモデルは、今後の介護ビジネスが成功するか否かを大きく左右するものだ勉強会のメンバーが気が付き始めました。ある大手企業の社長は、「中国は経済の格差があり、また社会保障制度が整備されていない中で、介護ビジネスはまだ不透明な面があるが、今、同業者との意見交換、海外への視察、政府の政策を十分理解する

などを通して、気が始まった落とし穴に落ちないよう色々と模索しながら、中国の国情に合うビジネスモデルを確立し、失敗を少なくしていく」、そして「中国は発展と変化が速いため、10年後、20年後の高齢者たちは今の高齢者と考え方、生活スタイル、消費観念などが違ってくるため、その時の介護ニーズも違ってくるでしょう。介護はやはり長期的で、先の見えないビジネスであるかもしれない」と語っています。